

まずシェアハウスに人工温泉 装置容積7分の1

2カ所で試験導入

環境科学、販路拡大つなげる

入浴剤製造・販売の環境科学(新潟市)は、容積を従来の7分の1に抑えた小型の人工温泉装置を2020年に発売する。まず新潟県外のシェアハウスとゲストハウスの2カ所で試験的に導入した後、県内外で本格展開する。外国人観光客(インバウンド)に人気が高い温泉を小規模な宿泊施設でも導入できることを売り込み、販路の拡大につなげる。

環境科学は業務用入浴剤の濃度を調整して香りをつけ、天然温泉に近い湯を供給する製造装置を販売している。18年から省スペースと、現地で設置する際の持ち運びの簡便化などに向けて、小型化した装置の開発に着手していた。

小型装置は9月中にも設計を完了する見通し。高さは従来製品の約1・8倍に対し、70センチに抑える。横幅も1・6倍から60センチとどめる。入浴剤を均一に溶かすための攪拌(かくはん)機を廃止し、濃度の調節に使う制御盤を小型化するなどして対応する。

温泉成分を含む入浴剤はアルカリ湯、塩化物湯など4種類とする予定だ。このうち2種類は既に環境科学は医薬部外品の承認を国から取得している。塩化物湯ではイスラエルとヨルダンの国境にある死海の塩を活用したのも用意する。マグネシウム塩を豊富に含んでいるため美容業界で使っており、死海には病気の療養に訪れる人も多い。入浴剤メーカーのノウハウを生かし、付加価値の高い入浴施設を実現できるようにする。

環境科学の18年12月期の売上高は1億7000万円だった。入浴剤の製造・販売が主力で、人工温泉装置の販売は売上高の1割強の約2000万円を占めている。

環境科学の18年12月期の売上高は1億7000万円だった。入浴剤の製造・販売が主力で、人工温泉装置の販売は売上高の1割強の約2000万円を占めている。

環境成分を含む入浴剤はアルカリ湯、塩化物湯など4種類とする予定だ。このうち2種類は既に環境科学は医薬部外品の承認を国から取得している。塩化物湯ではイスラエルとヨルダンの国境にある死海の塩を活用したのも用意する。マグネシウム塩を豊富に含んでいるため美容業界で使っており、死海には病気の療養に訪れる人も多い。入浴剤メーカーのノウハウを生かし、付加価値の高い入浴施設を実現できるようにする。

環境科学は人工温泉装置を1980年代後半に開発し、これまでにビジネスホテルやスポーツジムなど全国約200カ所で導入されている。白く濁った湯は特に外国人からの人気が高い。古民家を改修した民宿やゲストハウスなど、浴槽の大きさが一般家庭と同じ程度



現行装置の小型化を進め、シェアハウスなどでも導入しやすくする(写真上)。装置で「死海」の塩などを使った入浴剤に濁り液を混合する。